令和元年度　第２回図書館協議会　【議事概要】

日　時　令和２年２月２６日（水）１４：００～１５：３０
場　所　長井市立図書館　３階視聴覚室
出席者　■委員：田中美壽委員長、鈴木道子副委員長、佐々木友明委員、後藤 浩委員、
勝見真喜子委員、大沼 久委員、平 浩一郎委員、平 みわ委員、
多田知子委員
■長井市立図書館：倉持館長、山口副館長
■事務局：土屋教育長、佐々木文化生涯学習課長、佐原主任、富塚、飯澤

会議次第
１．開会
２．委員長あいさつ
３．教育長あいさつ
４．協議
（１）令和元年度事業報告等について
（２）令和２年度事業計画等について
（３）その他
５．閉会

協　議

（１）　令和元年度事業報告等について
・内容は資料のとおり

図書館長、副館長より令和元年度事業報告について説明の後、質疑に入る。

委員　「いなほ号は、幼稚園・小学校の他に高齢者施設にも訪問しているのか。」

副館長　「現在は、おいたま荘と泉荘の２か所に訪問している。どちらの施設も依頼があったことがきっかけでお伺いしている。他にも希望があれば訪問させていただきたい。」

委員　「高齢者施設に入っている方は一人暮らしの方が多く、施設でも色々イベント等を行っているが、集まりには出たくないという方もいる。本があれば、そういう方でも好きな時に読めるのではないか。」

副館長　「施設に来てほしいという要望があれば、スケジュールの都合もあるが新規の訪問先として調整することは可能。現在、高齢者施設には月２回のペースでお伺いしている状況。」

委員　「高齢者施設で、外出可能なお年寄りを買い物に連れて行ったりという企画もしているが、図書館にも寄って、時間を決めて好きな本を読んだりという事は可能か。」

副館長　「学校行事の施設見学でも、１時間程のスケジュールで質問を受けたり本を借りたりしていただいているので来館は可能。」

委員長　「いなほ号で施設を訪問してみて利用者の反応はどうか。」

副館長　「いなほ号には常には子供向けの本を載せているので、高齢者施設にお伺いする際に用意する大人向けの本については、職員が予め要望をお聞きし、別に箱詰めして持っていくようにしている。」

委員　「学校という立場からお話しさせていただくと、子供達の読書離れの現状に大変責任を感じている。学校の調査でも家庭読書の時間数が年々減少している傾向がある。もちろん学校としても読書教育を勧めているが、家庭の協力も必要なので、PTA の方々と連携しながら親子読書を勧めている状況。本校では、母親委員だけでなく、お父さん方も学校での読み聞かせをとおして、読書の楽しさを教える活動をしてくださっている。それでもこういう状況になっているのは、様々な環境もあると思うが、じっくりと読書をするというよりも、ページ数や冊数の競争に夢中になってしまうという子供達の性質もあると思う。
　本当に本を好きになるためには、楽しい本を、時間をかけて読むことが必要だと思う。本の面白さが分かれば、学校でも家庭でも読書の取り組みが進んでいくのではないか。皆様からのご意見も参考にさせていただきながら、学校現場としても取り組んでいきたいと思っている。」

委員　「読んだ本のページ数や冊数を競い合うことは現在も学校で行っているのか。」

委員　「以前は多く実施していたが、現在は、秋の読書まつりや委員会活動の一環で、どれくらい読むか目標を立て、目標を達成した子供には図書委員が作ったしおりをあげる等、イベント的な取り組みで行っている。」

委員　「私が子供の頃も、クラスで読んだ量に応じてシールを貼って競い合ったことがあったが、今はやっていないのかと思っていた。競い合うということに賛否はあると思うが、最

初はページ数の達成だけが目的でも、色々読んでいくうちに面白い本に出会い、ゆっくりと深く読むことにつながることもあると思う。毎日続けることで手ごたえを感じ、良い読書につながるというように、入り口として必要なのかなと思った。」

委員　「『きっかけづくり』という点に関して、親が子供を誘って図書館に行くというケースは、残念ながらあまりないと思う。子供が大人を誘って、または自ら図書館に行くという習慣づけが必要。

図書館に来たことが無い小学生もいるはずなので、移動の苦労はあるが、学校で図書館への来館を積極的に勧めていただき、図書館を身近に感じてもらい、どういうところか知っていただくことで、きっかけをつくることができると思う。

学校としても、年２回ぐらい図書館を訪れる機会を確保していただければ、読書を好きになるきっかけづくりになると思う。」

委員長　「大人が子供に読み聞かせるのでなく、子供が大人に読み聞かせるという逆の発想も大事なのではないか。学年行事に入れることも考えていただきたい。」

委員　「大人の来館が少ないとのことだが、実施状況のデータを見ると、子供向け事業は多いが、大人向け事業のインパクトがあまりないように思う。」

副館長　「図書館まつりに向けてのスタンプラリー、お正月のすごろく読書、本の福袋等は大人も対象としている。」

委員　「見せ方に問題があるのではないか。参加したくなるように、もう少し工夫が必要だと思う。」

委員　「本校から図書館までの距離が近いので、生徒には利用してもらいたいと思っているが、開館時間の関係で旧長井小学校第一校舎を利用する生徒が多いようだ。忙しくて充分な読書活動ができないという学校評価も出ている。年間５冊程度は借りてほしいが、統計では平均４．２冊となっている。

読書離れと言われているが、読書の習慣を持っている生徒は確実にいて、一年生を中心に生活の一部になっている生徒もいるので、必ずしも若い人が本から完全に離れているわけでない。

地味でも様々な活動を通して、読書の習慣を持つ生徒たちを増やしていきたいと考えている。今年度は朗読会を行った。継続していけば状況が少しずつ改善できるのではないか。

図書館には、生徒が普段手にしないような本がたくさんあるので、その中から一冊選ばせ読ませたりしたこともあった。それで本を好きになるかどうか分からないが、機会を与える

ことも大事ではないか。
　また、図書委員の能力を少し高める意味でも、図書館の職員と協力して活動を行っていければと考えている。」

委員　「子供は基本的に本を読むのが好きだと思うが、学校図書室と市立図書館は違うと思う。学級文庫の貸出しや、学校に出向いてのブックトークも大変良いことだが、子供たちが図書館に来て、雰囲気を味わい、様々な本に触れることによって、学校には無い広がりを味わうことができると思う。大変だと思うが、図書館に足を運ぶ機会をつくってあげることが大事ではないか。
　遊学館に行ってみたが、スマホの利用やドリンク持ち込みなども可能で、利用しやすく、若い人も行きたくなるような開放的な雰囲気だった。
　新しい図書館には多くの人が期待していると思うので、皆さんが行きたいと思えるような、小さい子供連れでも気兼ねなく利用できるような図書館をつくっていけたら良いと思う。
　良い企画を沢山実施されているので、より多くの方に知っていただけるような PR の仕方を考えられたら良いのではないか。」

委員長　「図書館に一回入ってみると違うと思うので、きっかけを作ってもらうことが大事。PR の仕方として、例えば山形新聞の予定欄に図書館の大きなイベントなどの掲載をお願いしてみてはどうか。」

（２）　令和２年度事業計画等について
　　・内容は資料のとおり

　事務局より、令和２年度図書館運営計画及び予算について説明。また、図書館長及び副館長より令和２年度事業計画について説明の後、質疑に入る。

図書館・事務局の説明に対して、委員より質問・意見は無く、全員から了承いただいた。

以上で令和元年度第２回図書館協議会を閉会した。